

資料2-1. 処方単位を考慮して個包装されている医療用医薬品（経口投与剤）の例

販売 開始	販売名 (製造販売元)	有効成分 (効能・効果)	用法・用量	包装
2024年 11月	タフィーゴ [®] 錠35mg (エーザイ株式会社)	タスルグラチニブコハク酸 (がん化学療法後に増悪した FGFR2融合遺伝子陽性の治 癒切除不能な胆道癌)	通常、成人には、タスルグラチニブとして1日1回140mgを 空腹時に経口投与する。なお、患者の状態により適宜減 量する。	56錠[14錠(PTP)×4]
2023年 5月	メフィーゴ [®] パック (ラインファーマ株式会社)	ミフェプリストン ミソプロストール (子宮内妊娠が確認された妊 娠63日(妊娠9週0日)以下の 者に対する人工妊娠中絶)	ミフェプリストン錠1錠(ミフェプリストンとして200mg)を経口 投与し、その36～48時間後の状態に応じて、ミソプロス トールバツカル錠4錠(ミソプロストールとして計800μg)を 左右の臼歯の歯茎と頬の間に2錠ずつ30分間静置する。 30分間静置した後、口腔内にミソプロストールの錠剤が 残った場合には飲み込む。	メフィーゴ [®] パック1剤目(ミフェ プリストン錠):PTP包装1錠 メフィーゴ [®] パック2剤目(ミソプロ ストールバツカル錠):ストリップ (SP)包装4錠
2022年 11月	ゾコーバ錠125mg (塩野義製薬株式会社)	エンシトレルビル フマル酸 (SARS-CoV-2による感染症)	通常、12歳以上の小児及び成人にはエンシトレルビルとし て1日目は375mgを、2日目から5日目は125mgを1日1回経 口投与する。	7錠[7錠(PTP)×1] 28錠[14錠(PTP)×2]
2021年 12月	ラゲブリオ [®] カプセル 200mg (MSD株式会社)	モルヌピラビル (SARS-CoV-2による感染症)	通常、18歳以上の患者には、モルヌピラビルとして1回 800mgを1日2回、5日間経口投与する。	40カプセル[瓶、バラ]
2021年 1月	イグザレルト [®] OD錠10mg (バイエル薬品株式会社)	リバーロキサバン (成人:1. 非弁膜症性心房細 動患者における虚血性脳卒中 及び全身性塞栓症の発症抑 制、2. 静脈血栓塞栓症(深部 静脈血栓症及び肺血栓塞栓 症)の治療及び再発抑制 小児:1. 静脈血栓塞栓症の治 療及び再発抑制、2. Fontan手 術施行後における血栓・塞栓 形成の抑制)	〈非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全 身性塞栓症の発症抑制〉通常、成人にはリバーロキサバ ンとして15mgを1日1回食後に経口投与する。なお、腎障 害のある患者に対しては、腎機能の程度に応じて10mg1 日1回に減量する。 〈静脈血栓塞栓症の治療及び再発抑制〉成人:通常、成 人には深部静脈血栓症又は肺血栓塞栓症発症後の初期 3週間はリバーロキサバンとして15mgを1日2回食後に経 口投与し、その後は15mgを1日1回食後に経口投与する。 小児:通常、体重30kg以上の小児にはリバーロキサバンと して15mgを1日1回食後に経口投与する。 〈Fontan手術施行後における血栓・塞栓形成の抑制〉 通常、体重50kg以上の小児にはリバーロキサバンとして 10mgを1日1回経口投与する。	140錠[14錠(PTP)×10]
	イグザレルト [®] OD錠15mg (バイエル薬品株式会社)			

資料2-2. 処方単位を考慮して個包装されている医療用医薬品（経口投与剤）の例

販売 開始	販売名 (製造販売元)	有効成分 (効能・効果)	用法・用量	包装
2018年 5月	プレバイミス®錠240mg (MSD株式会社)	レテルモビル (同種造血幹細胞移植、臓器 移植におけるサイトメガロウイ ルス感染症の発症抑制)	通常、成人にはレテルモビルとして480mg(240mg錠2錠又 は120mg顆粒4包)を1日1回経口投与する。シクロスポリン と併用投与する場合にはレテルモビルとして240m(240mg 錠1錠又は120mg顆粒2包)を1日1回経口投与する。 通常、小児にはレテルモビルとして以下の用量を1日1回 経口投与する。	14錠[7錠(PTP) × 2]
	プレバイミス®顆分包20mg プレバイミス®顆分包 120mg (MSD株式会社)			30包[1包 × 30]
2017年 12月	ロスバスタチンOD錠 2.5mg日医工 (日医工株式会社)	ロスバスタチンカルシウム (高コレステロール血症、家族 性高コレステロール血症)	通常、成人にはロスバスタチンとして1日1回2.5mgより投与 を開始するが、早期にLDL-コレステロール値を低下させる 必要がある場合には5mgより投与を開始してもよい。な お、年齢・症状により適宜増減し、投与開始後あるいは増 量後、4週以降にLDL-コレステロール値の低下が不十分 な場合には、漸次10mgまで増量できる。10mgを投与して もLDL-コレステロール値の低下が十分でない、家族性高 コレステロール血症患者などの重症患者に限り、さらに増 量できるが、1日最大20mgまでとする。	140錠[14錠(PTP) × 10]
	ロスバスタチンOD錠5mg 「日医工」 (日医工株式会社)			
2017年 6月	テルミサルタン錠80mg 「日医工」 (日医工株式会社)	テルミサルタン (高血圧症)	通常、成人にはテルミサルタンとして40mgを1日1回経口投 与する。ただし、1日20mgから投与を開始し漸次増量す る。なお、年齢・症状により適宜増減するが、1日最大投 与量は80mg までとする。	140錠[14錠(PTP) × 10]
2016年 6月	ボノサップ®パック400 ボノサップ®パック800 (武田薬品工業株式会社)	ボノプラザンフマル酸塩 アモキシシリン水和物 クラリスロマイシン (適応菌種: アモキシシリン、クラリ スロマイシンに感性のヘリコバク ター・ピロリ、適応症: 胃潰瘍・十 二指腸潰瘍・胃MALTリンパ腫・特 発性血小板減少性紫斑病・早期 胃癌に対する内視鏡的治療後胃 におけるヘリコバクター・ピロリ感 染症、ヘリコバクター・ピロリ感染 胃炎)	通常、成人にはボノプラザンとして1回20mg、アモキシシリ ン水和物として1回750mg(力価)及びクラリスロマイシンとし て1回200mg(力価)の3剤を同時に1日2回、7日間経口投 与する。 なお、クラリスロマイシンは、必要に応じて適宜増量するこ とができる。ただし、1回400mg(力価)1日2回を上限とする。	PTP入り 7シート(1シート×7、乾 燥剤入り)

資料2-3. 処方単位を考慮して個包装されている医療用医薬品（経口投与剤）の例

販売開始	販売名 (製造販売元)	有効成分 (効能・効果)	用法・用量	包装
2016年 6月	ボノピオン [®] パック (武田薬品工業株式会社)	ボノプラザンフマル酸塩 アモキシシリン水和物 メトロニダゾール (適応菌種: アモキシシリン、メロニダゾールに感性のヘリコバクター・ピロリ、適応症: 胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃MALTリンパ腫・特発性血小板減少性紫斑病・早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃におけるヘリコバクター・ピロリ感染症、ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎)	プロトンポンプインヒビター、アモキシシリン水和物及びクラリスロマイシンの3剤投与によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功の場合 通常、成人にはボノプラザンとして1回20mg、アモキシシリン水和物として1回750mg(力価)及びメトロニダゾールとして1回250mgの3剤を同時に1日2回、7日間経口投与する。	PTP入り 7シート(1シート×7、乾燥剤入り)
2015年 9月	ハーボニー [®] 配合錠 (ギリアド・サイエンス株式会社)	レジパスビル ソホスビル (セログループ1(ジェノタイプ1)又はセログループ2(ジェノタイプ2)のC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善)	通常、成人には1日1回1錠(レジパスビルとして90mg及びソホスビルとして400mg)を12週間経口投与する。	14錠[7錠(PTP)×2] (ボトル包装からPTP包装に変更 (2017年3月))
2015年 6月	クロピドグレル錠25mg 「SANIK」 (日医工株式会社)	クロピドグレル (1. 虚血性脳血管障害(心原性脳塞栓症を除く)後の再発抑制、2. 経皮的冠動脈形成術(PCI)が適用される下記の虚血性心疾患、急性冠症候群(不安定狭心症、非ST上昇心筋梗塞、ST上昇心筋梗塞)、安定狭心症、陳旧性心筋梗塞、3. 末梢動脈疾患における血栓・塞栓形成の抑制)	1. 虚血性脳血管障害(心原性脳塞栓症を除く)後の再発抑制: 通常、成人には、クロピドグレルとして75mgを1日1回経口投与するが、年齢、体重、症状によりクロピドグレルとして50mgを1日1回経口投与する。 2. 経皮的冠動脈形成術(PCI)が適用される虚血性心疾患: 通常、成人には、投与開始日にクロピドグレルとして300mgを1日1回経口投与し、その後、維持量として1日1回75mgを経口投与する。 3. 末梢動脈疾患における血栓・塞栓形成の抑制: 通常、成人には、クロピドグレルとして75mgを1日1回経口投与する。	140錠[14錠(PTP)×10]
	クロピドグレル錠75mg 「SANIK」 (日医工株式会社)			140錠[14錠(PTP)×10] 700錠[14錠(PTP)×50]
2014年 6月	プラナルカストカプセル 225mg「日医工」 (日医工株式会社)	プラナルカスト水和物 (1. 気管支喘息、2. アレルギー性鼻炎)	通常、成人にはプラナルカスト水和物として1日量450mg(本剤2カプセル)を朝食後及び夕食後の2回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	140カプセル[14カプセル(PTP)×10]

資料2-4. 処方単位を考慮して個包装されている医療用医薬品（経口投与剤）の例

販売 開始	販売名 (製造販売元)	有効成分 (効能・効果)	用法・用量	包装
2014年 5月	メモリー [®] OD錠5mg (第一三共株式会社)	メマンチン塩酸塩 (中等度及び高度アルツハイ マー型認知症における認知症 症状の進行抑制)	通常、成人にはメマンチン塩酸塩として1日1回5mgから開 始し、1週間に5mgずつ増量し、維持量として1日1回20mg を経口投与する。	14錠[14錠(PTP)×1:乾燥剤入り] 56錠[14錠(PTP)×4:乾燥剤入り]
	メモリー [®] OD錠10mg (第一三共株式会社)			14錠[14錠(PTP)×1:乾燥剤入り] 56錠[14錠(PTP)×4:乾燥剤入り]
	メモリー [®] OD錠20mg (第一三共株式会社)			56錠[14錠(PTP)×4:乾燥剤入り] 112錠[14錠(PTP)×8:乾燥剤入 り]
2014年 2月	ラベキュア [®] パック400 ラベキュア [®] パック800 (エーザイ株式会社)	ラベプラゾールナトリウム アモキシシリン水和物 クラリスロマイシン (適応菌種: アモキシシリン、クラリ スロマイシンに感性のヘリコバク ター・ピロリ、適応症: 胃潰瘍・十 二指腸潰瘍・胃MALTリンパ腫・特 発性血小板減少性紫斑病・早期 胃癌に対する内視鏡的治療後胃 におけるヘリコバクター・ピロリ感 染症、ヘリコバクター・ピロリ感染 胃炎)	通常、成人にはラベプラゾールナトリウムとして1回10mg、 アモキシシリン水和物として1回750mg(力価)及びクラリス ロマイシンとして1回200mg(力価)の3剤を同時に1日2回、7 日間経口投与する。 なお、クラリスロマイシンは、必要に応じて適宜増量するこ とができる。ただし、1回400mg(力価)1日2回を上限とする。	PTP入り7シート(1シート×7)(ア ルミ袋内に乾燥剤封入)
2014年 2月	ラベファイン [®] パック (エーザイ株式会社)	ラベプラゾールナトリウム アモキシシリン水和物 メトロニダゾール (適応菌種: アモキシシリン、メトロ ニダゾールに感性のヘリコバク ター・ピロリ、適応症: 胃潰瘍・十 二指腸潰瘍・胃MALTリンパ腫・特 発性血小板減少性紫斑病・早期 胃癌に対する内視鏡的治療後胃 におけるヘリコバクター・ピロリ感 染症、ヘリコバクター・ピロリ感染 胃炎)	プロトンポンプインヒビター、アモキシシリン水和物及びク ラリスロマイシンの3剤投与によるヘリコバクター・ピロリ の除菌治療が不成功の場合 通常、成人にはラベプラゾールナトリウムとして1回10mg、 アモキシシリン水和物として1回750mg(力価)及びメトロニ ダゾールとして1回250mgの3剤を同時に1日2回、7日間経 口投与する。	PTP入り7シート(1シート×7)(ア ルミ袋内に乾燥剤封入)

資料2-5. 処方単位を考慮して個包装されている医療用医薬品（経口投与剤）の例

販売開始	販売名 (製造販売元)	有効成分 (効能・効果)	用法・用量	包装
2013年 12月	ドネペジル塩酸塩OD錠 10mg「日医工」 (日医工株式会社)	ドネペジル塩酸塩 (アルツハイマー型認知症及び レビー小体型認知症における 認知症症状の進行抑制)	1. アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制: 通常、成人にはドネペジル塩酸塩として1日1回3mgから開始し、1～2週間後に5mgに増量し、経口投与する。高度のアルツハイマー型認知症患者には、5mgで4週間以上経過後、10mgに増量する。なお、症状により適宜減量する。 2. レビー小体型認知症における認知症症状の進行抑制: 通常、成人にはドネペジル塩酸塩として1日1回3mgから開始し、1～2週間後に5mgに増量し、経口投与する。5mgで4週間以上経過後、10mgに増量する。なお、症状により5mgまで減量できる。投与開始12週間後までを目安に、認知機能検査、患者及び家族・介護者から自他覚症状の聴取等による有効性評価を行い、認知機能、精神症状・行動障害、日常生活動作等を総合的に評価してベネフィットがリスクを上回ると判断できない場合は、投与を中止すること。投与開始12週間後までの有効性評価の結果に基づき投与継続を判断した場合であっても、定期的に有効性評価を行い、投与継続の可否を判断すること。	56錠[14錠(PTP)×4:乾燥剤入り] 140錠[14錠(PTP)×10:乾燥剤入り]
2012年 9月	テネリア®錠20mg (田辺三菱製薬株式会社)	テネリグリプチン臭化水素酸 塩水和物 (2型糖尿病)	通常、成人にはテネリグリプチンとして20mgを1日1回経口投与する。なお、効果不十分な場合には、経過を十分に観察しながら40mg1日1回に増量することができる。	140錠[14錠(PTP)×10] 700錠[14錠(PTP)×50]
2012年 6月	ロサルタンカリウム錠 25mg「日医工」 (日医工株式会社)	ロサルタンカリウム (1. 高血圧症、2. 高血圧及び 蛋白尿を伴う2型糖尿病にお ける糖尿病性腎症)	1. 高血圧症: 通常、成人にはロサルタンカリウムとして25～50mgを1日1回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日100mgまで増量できる。 2. 高血圧及び蛋白尿を伴う2型糖尿病における糖尿病性腎症: 通常、成人にはロサルタンカリウムとして50mgを1日1回経口投与する。なお、血圧値をみながら1日100mgまで増量できる。ただし、過度の血圧低下を起こすおそれのある患者等では25mgから投与を開始する。	140錠[14錠(PTP)×10] 140錠[14錠(PTP)×2)×5袋]
	ロサルタンカリウム錠 50mg「日医工」 (日医工株式会社)			

資料2-6. 処方単位を考慮して個包装されている医療用医薬品（経口投与剤）の例

販売 開始	販売名 (製造販売元)	有効成分 (効能・効果)	用法・用量	包装
2011年 11月	ドネペジル塩酸塩OD錠 3mg「日医工」 (日医工株式会社)	ドネペジル塩酸塩 (アルツハイマー型認知症及び レビー小体型認知症における 認知症症状の進行抑制)	1. アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制: 通常、成人にはドネペジル塩酸塩として1日1回3mgから開始し、1～2週間後に5mgに増量し、経口投与する。高度のアルツハイマー型認知症患者には、5mgで4週間以上経過後、10mgに増量する。なお、症状により適宜減量する。 2. レビー小体型認知症における認知症症状の進行抑制: 通常、成人にはドネペジル塩酸塩として1日1回3mgから開始し、1～2週間後に5mgに増量し、経口投与する。5mgで4週間以上経過後、10mgに増量する。なお、症状により5mgまで減量できる。投与開始12週間後までを目安に、認知機能検査、患者及び家族・介護者から自他覚症状の聴取等による有効性評価を行い、認知機能、精神症状・行動障害、日常生活動作等を総合的に評価してベネフィットがリスクを上回ると判断できない場合は、投与を中止すること。投与開始12週間後までの有効性評価の結果に基づき投与継続を判断した場合であっても、定期的に有効性評価を行い、投与継続の可否を判断すること。	14錠[14錠(PTP)×1:乾燥剤入り] 28錠[14錠(PTP)×2:乾燥剤入り]
	ドネペジル塩酸塩OD錠 5mg「日医工」 (日医工株式会社)			56錠[14錠(PTP)×4:乾燥剤入り] 140錠[14錠(PTP)×10:乾燥剤入り]
2011年 6月	メマリー®錠5mg (第一三共株式会社)	メマンチン塩酸塩 (中等度及び高度アルツハイ マー型認知症における認知症 症状の進行抑制)	通常、成人にはメマンチン塩酸塩として1日1回5mgから開始し、1週間に5mgずつ増量し、維持量として1日1回20mgを経口投与する。	14錠[14錠(PTP)×1] 56錠[14錠(PTP)×4]
	メマリー®錠10mg (第一三共株式会社)			14錠[14錠(PTP)×1] 56錠[14錠(PTP)×4]
	メマリー®錠20mg (第一三共株式会社)			56錠[14錠(PTP)×4] 112錠[14錠(PTP)×8]

資料2-7. 処方単位を考慮して個包装されている医療用医薬品（経口投与剤）の例

販売 開始	販売名 (製造販売元)	有効成分 (効能・効果)	用法・用量	包装
2010年 11月	ランソプラゾールOD錠 15mg「日医工」 (日医工株式会社)	ランソプラゾール (1. 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、逆流性食道炎、Zollinger- Ellison症候群、非びらん性胃食道逆流症、低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制、非ステロイド性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制、2. 下記におけるヘリコバクター・ピロリの除菌の補助：胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃MALTリンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎)	1-1. 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、Zollinger- Ellison症候群の場合：通常、成人にはランソプラゾールとして1回30mgを1日1回経口投与する。なお、通常、胃潰瘍、吻合部潰瘍では8週間まで、十二指腸潰瘍では6週間までの投与とする。 1-2. 逆流性食道炎の場合：通常、成人にはランソプラゾールとして1回30mgを1日1回経口投与する。なお、通常8週間までの投与とする。さらに、再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎の維持療法においては、1回15mgを1日1回経口投与するが、効果不十分の場合は、1日1回30mgを経口投与することができる。 1-3. 非びらん性胃食道逆流症の場合：通常、成人にはランソプラゾールとして1回15mgを1日1回経口投与する。なお、通常4週間までの投与とする。 1-4. 低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制の場合：通常、成人にはランソプラゾールとして1回15mgを1日1回経口投与する。 1-5. 非ステロイド性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制の場合：通常、成人にはランソプラゾールとして1回15mgを1日1回経口投与する。 2. ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助の場合：通常、成人にはランソプラゾールとして1回30mg、アモキシシリン水和物として1回750mg(力価)及びクラリスロマイシンとして1回200mg(力価)の3剤を同時に1日2回、7日間経口投与する。なお、クラリスロマイシンは、必要に応じて適宜増量することができる。ただし、1回400mg(力価)1日2回を上限とする。プロトンポンプインヒビター、アモキシシリン水和物及びクラリスロマイシンの3剤投与によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功の場合は、これに代わる治療として、通常、成人にはランソプラゾールとして1回30mg、アモキシシリン水和物として1回750mg(力価)及びメトロニダゾールとして1回250mgの3剤を同時に1日2回、7日間経口投与する。	140錠[14錠(PTP)×10] 140錠[14錠(PTP)×2]×5袋

資料2-8. 処方単位を考慮して個包装されている医療用医薬品（経口投与剤）の例

販売開始	販売名 (製造販売元)	有効成分 (効能・効果)	用法・用量	包装
2009年 12月	ジャヌビア®錠50mg (MSD株式会社)	シタグリプチンリン酸塩水和物 (2型糖尿病)	通常、成人にはシタグリプチンとして50mgを1日1回経口投与する。なお、効果不十分な場合には、経過を十分に観察しながら100mg 1日1回まで増量することができる。	140錠[14錠(PTP) × 10] 700錠[14錠(PTP) × 50]
	ジャヌビア®錠100mg (MSD株式会社)			140錠[14錠(PTP) × 10]
2009年 11月	アムロジピンOD錠5mg 「日医工」 (日医工株式会社)	アムロジピン ベシル酸塩 (高血圧、狭心症)	高血圧症: 通常、成人にはアムロジピンとして2.5～5mgを1日1回経口投与する。なお、症状に応じ適宜増減するが、効果不十分な場合には1日1回10mgまで増量することができる。通常、6歳以上の小児には、アムロジピンとして2.5mgを1日1回経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。 狭心症: 通常、成人にはアムロジピンとして5mgを1日1回経口投与する。なお、症状に応じ適宜増減する。	140錠[14錠(PTP) × 10: 乾燥剤入り] 700錠[14錠(PTP) × 50: 乾燥剤入り]
2008年 7月	アムロジピン錠5mg「日医工」 (日医工株式会社)			140錠[14錠(PTP) × 10] 700錠[14錠(PTP) × 50]
2007年 12月	アリセプト®錠10mg (エーザイ株式会社)	ドネペジル塩酸塩 (アルツハイマー型認知症及び レビー小体型認知症における 認知症症状の進行抑制)	1. アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制: 通常、成人にはドネペジル塩酸塩として1日1回3mgから開始し、1～2週間後に5mgに増量し、経口投与する。高度のアルツハイマー型認知症患者には、5mgで4週間以上経過後、10mgに増量する。なお、症状により適宜減量する。 2. レビー小体型認知症における認知症症状の進行抑制: 通常、成人にはドネペジル塩酸塩として1日1回3mgから開始し、1～2週間後に5mgに増量し、経口投与する。5mgで4週間以上経過後、10mgに増量する。なお、症状により5mgまで減量できる。投与開始12週間後までを目安に、認知機能検査、患者及び家族・介護者から自他覚症状の聴取等による有効性評価を行い、認知機能、精神症状・行動障害、日常生活動作等を総合的に評価してベネフィットがリスクを上回ると判断できない場合は、投与を中止すること。投与開始12週間後までの有効性評価の結果に基づき投与継続を判断した場合であっても、定期的に有効性評価を行い、投与継続の可否を判断すること。	56錠[14錠(PTP) × 4] 140錠[14錠(PTP) × 10]
2007年 7月	プラナルカストカプセル 112.5mg「日医工」 (日医工株式会社)	プラナルカスト水和物 (1. 気管支喘息、2. アレルギー 性鼻炎)	通常、成人にはプラナルカスト水和物として1日量450mg(本剤2カプセル)を朝食後及び夕食後の2回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	140カプセル[14カプセル (PTP) × 10] 420カプセル[14カプセル (PTP) × 30]

資料2-9. 処方単位を考慮して個包装されている医療用医薬品（経口投与剤）の例

販売 開始	販売名 (製造販売元)	有効成分 (効能・効果)	用法・用量	包装
2001年 9月	アリセプト®細粒0.5% (エーザイ株式会社)	ドネペジル塩酸塩 (アルツハイマー型認知症及び レビー小体型認知症における 認知症症状の進行抑制)	1. アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制: 通常、成人には1日1回0.6gから開始し、1～2週間後に1.0gに増量し、経口投与する。高度のアルツハイマー型認知症患者には、1.0gで4週間以上経過後、2.0gに増量する。なお、症状により適宜減量する。 2. レビー小体型認知症における認知症症状の進行抑制: 通常、成人には1日1回0.6gから開始し、1～2週間後に1.0gに増量し、経口投与する。1.0gで4週間以上経過後、2.0gに増量する。なお、症状により1.0gまで減量できる。	16.8g[0.6g(分包)×2×14)、 56g[1.0g(分包)×2×28)、 100g[ボトル、バラ]
1999年 11月	アリセプト®錠3mg (エーザイ株式会社)	ドネペジル塩酸塩 (アルツハイマー型認知症及び レビー小体型認知症における 認知症症状の進行抑制)	1. アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制: 通常、成人にはドネペジル塩酸塩として1日1回3mgから開始し、1～2週間後に5mgに増量し、経口投与する。高度のアルツハイマー型認知症患者には、5mgで4週間以上経過後、10mgに増量する。なお、症状により適宜減量する。 2. レビー小体型認知症における認知症症状の進行抑制: 通常、成人にはドネペジル塩酸塩として1日1回3mgから開始し、1～2週間後に5mgに増量し、経口投与する。5mgで4週間以上経過後、10mgに増量する。なお、症状により5mgまで減量できる。投与開始12週間後までを目安に、認知機能検査、患者及び家族・介護者から自他覚症状の聴取等による有効性評価を行い、認知機能、精神症状・行動障害、日常生活動作等を総合的に評価してベネフィットがリスクを上回ると判断できない場合は、投与を中止すること。投与開始12週間後までの有効性評価の結果に基づき投与継続を判断した場合であっても、定期的に有効性評価を行い、投与継続の可否を判断すること。	14錠[14錠(PTP)×1] 28錠[14錠(PTP)×2] 140錠 [14錠(PTP)×10]
	アリセプト®錠5mg (エーザイ株式会社)			56錠[14錠(PTP)×4] 140錠[14錠(PTP)×10]